

2022年10月26日

### 2022年10~12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 物価高で消費減退の懸念にじむも 生産は持ち直し傾向続く































静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、9月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 現況

- 県内産業の現況（2022年7～9月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「二輪車部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「自動車販売」「人材派遣」「観光・レジャー」の5業種となった。
- 『低調』は「食品・飲料」「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「物流」「外食」の7業種で、『不調』の業種はなかった。

#### 今後の見通し

- 2022年10～12月期の見通しについては、『好調』1業種と『順調』2業種は前期と変わらず、「自動車部品」「住宅」「物流」が『低調』から一段階上昇して『普通』が8業種となる。
- 『低調』は4業種で、『不調』の業種はない見通し。
- 原材料価格が高止まりする中で収益環境の悪化が不安視されるが、部品調達環境の混乱がやや収まってきたことで、主力の輸送機器を中心に生産活動は持ち直し傾向が続き、対事業所サービスも底堅く推移しそうである。
- 小売や個人向けサービスでは、販売価格の一段の値上げで消費意欲の低下や収益悪化を危惧する声が聞こえる一方、観光・レジャーでは公的支援を追い風に業績回復への期待がかかる。

業種	業界天気	
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)
製紙		→ 
食品・飲料		→ 
工作機械		→ 
民生用電器部品		→ 
自動車部品		→ 
二輪車部品		→ 
建設		→ 
住宅		→ 
大型小売店		→ 
自動車販売		→ 
物流		→ 
情報サービス		→ 
人材派遣		→ 
観光・レジャー		→ 
外食		→ 

※本件のお問合せ先 主任研究員 大石 彰男

## 物価高で消費減退の懸念にじむも、生産は持ち直し傾向続く

### 業界景気の現況（2022年7～9月期）

県内産業の現況（2022年7～9月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「二輪車部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「自動車販売」「人材派遣」「観光・レジャー」の5業種、『低調』が「食品・飲料」「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「物流」「外食」の7業種で、『不調』の業種はなかった。

### 業界景気の見通し（2022年10～12月期）

10～12月期の見通しについては、『好調』1業種と『順調』2業種は前期と変わらず、「自動車部品」「住宅」「物流」が『低調』から一段階上昇して『普通』が8業種となる。『低調』は4業種で、『不調』の業種はない見通し。原材料価格が高止まりする中で収益環境の悪化が不安視されるが、部品調達環境の混乱がやや収まってきたことで、主力の輸送機器を中心に生産活動は持ち直し傾向が続き、対事業所サービスも底堅く推移しそうである。小売や個人向けサービスでは、販売価格の一段の値上げで消費意欲の低下や収益悪化を危惧する声が聞こえる一方、観光・レジャーでは公的支援を追い風に業績回復への期待がかかる。

業種ごとにみると、製造業では省人化やEV化関連の需要の活況が続く「**工作機械**」が『好調』を維持。調達環境が落ち着きつつある「**二輪車部品**」が『順調』のまま推移する見込み。同様に、部品の調達難から生産が制約されていた「**自動車部品**」も改善方向にあり『低調』から『普通』に一段階上昇、エアコン向け需要が底堅い「**民生用電器部品**」や業務用需要が回復基調の「**製紙**」も『普通』を維持するなど、生産活動は総じて持ち直しの傾向がみられる。ただし、「**食料・飲料**」は原燃料価格高騰による価格改定で需要減少を懸念し、『低調』のまま推移する見通し。






非製造業では、前年伸びた民間工事の反動減によって「**建設**」は『低調』のままだが、「**住宅**」はローン金利の先高観から需要の前倒しが期待され、『低調』から『普通』へ上昇。小売では、商品の値上がりによる消費意欲低下が懸念される「**大型小売店**」が『低調』のまま、供給に改善の兆しはあるものの旺盛な需要に追い付かない「**自動車販売**」は『普通』のまま推移する見込み。機械関連などの輸送ニーズが底堅い「**物流**」は『低調』から『普通』に上昇し、旺盛なデジタル化需要を反映して「**情報サービス**」は『順調』のまま、自治体向け需要が続くとみられる「**人材派遣**」は『普通』のまま推移しそうである。

また、全国旅行支援や県民割など公的支援の効果が期待される「**観光・レジャー**」は『普通』を維持する一方、法人需要が戻らない「**外食**」は『低調』で変わらず、明暗が分かれそうである。

2022年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)		
製紙		→ 	➔	需要は回復基調だが、採算悪化により再び価格改定へ
食品・飲料		→ 	➡	原燃料価格の高騰で、需要は減少する見通し
工作機械		→ 	➔	国内外で省人化やEV化関連需要の活況が続く
民生用電器部品		→ 	➔	底堅い需要に対応し、エアコン生産は前年を上回る見通し
自動車部品		→ 	➡	部品調達環境は改善傾向、生産量は前年並み
二輪車部品		→ 	➔	調達環境は落ち着きつつあり、生産量は前年を上回って推移
建設		→ 	➡	災害復旧の公共工事が急増、民間工事は減少の見通し
住宅		→ 	➡	金利上昇を見越した前倒し需要に期待、着工戸数は前年並み
大型小売店		→ 	➡	値上げに伴う消費意欲の低下で、総販売額は前年をやや下回る
自動車販売		→ 	➔	供給に改善の兆しもあるも、旺盛な需要に追いつかず
物流		→ 	➔	機械関連が堅調に推移し、輸送量は前年水準をやや上回る
情報サービス		→ 	➔	デジタル化需要が底堅く、売上高は堅調に推移
人材派遣		→ 	➔	自治体向け需要が持続し、前年をわずかながら上回る見込み
観光・レジャー		→ 	➔	公的支援を追い風に、売上高は前年を上回る
外食		→ 	➔	個人需要は回復も、食材や燃料の価格上昇で収益は一段と悪化

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➡	増加(+3~+9%)
	普通			➡	横ばい(+2~△2%)
				➡	減少(△3~△9%)
				➡	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2019年	2020年				2021年				2022年		
四半期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月 (○は調査月)	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
全業種の平均階級値	2.65	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80
好調:5												
順調:4												
普通:3												
低調:2												
不調:1												
(業種数)	好調 ☀️	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1
	順調 ☁️	3	2	1	0	0	2	3	2	1	2	2
	普通 ☁️	8	5	3	2	3	5	4	4	5	3	5
	低調 ☁️	8	10	1	2	7	6	6	7	7	9	10
	不調 ☁️	1	3	10	10	5	2	2	2	1	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。  
 調査時点…2022年9月上旬  
 回答企業…県内主要15業種(230社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。  
 (2020年1~3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

### 製 紙

需要は回復基調だが、採算悪化により再び価格改定へ

【7-9月期】家庭紙の生産量は、値上げ前の特需の反動があったものの模様。中小幅にとどま

【10-12月期】家庭紙の生産量は、業務用需要が回復し前年を上回る見込み。ただし、原料の高騰で採算が大幅に悪化して、交渉を進め

【10-12月期売上高】前年同期比 7-9月期比

現 況

を上げた上げ幅は小を背景に需要が堅調で、生産量はほぼ前年並みで推移した模様。

見 通 し

に悪化して、交渉を進め、生や生産活動の回復で需要は堅調に推移し、生産量は前年並みを確保する見通し。価格面では大手先行で再値上げを予定。

国内紙・板紙生産量(前年比)(%)


資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

# 主要業種景況見通し


## 製紙 需要は回復基調だが、採算悪化により再び価格改定へ

**【現況】**



↓

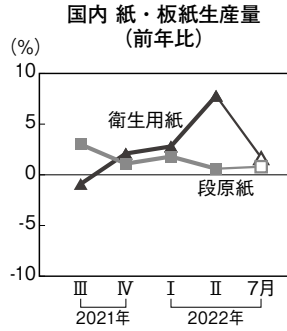
**【見通し】**



**【7-9月期】** 家庭紙の生産量は、値上げ前の特需の反動があったものの、業務用の回復により、前年を上回った模様。値上げは浸透したが、上げ幅は小幅にとどまった。段原紙は、生産活動の回復を背景に需要が堅調で、生産量はほぼ前年並みで推移した模様。

**【10-12月期】** 家庭紙の生産量は、業務用需要が回復し前年を上回る見込み。ただし、原燃料の高騰で採算が大幅に悪化しており、メーカーは年明けの再値上げに向けた交渉を進めている。段原紙は、年末需要の発生や生産活動の回復で需要は堅調に推移し、生産量は前年並みを確保する見通し。価格面では大手先行で再値上げを予定。

**国内紙・板紙生産量  
(前年比)**

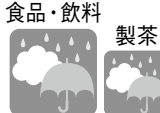


資料：経済産業省

<b>前年同期比</b>	<b>7-9月期比</b>	<b>操業度</b>	<b>需給バランス</b>	<b>製品在庫水準</b>	<b>原材料価格</b>	<b>製品価格</b>	<b>受注残</b>
→	→	90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

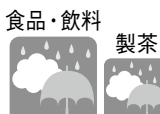
## 食品・飲料/製茶 原燃料価格の高騰で、需要は減少する見通し

**【現況】**



↓

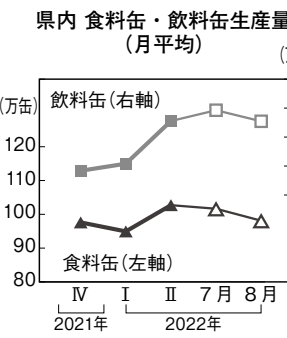
**【見通し】**



**【7-9月期】** **食品・飲料：**県内食料缶メーカーの売上高は、前年を下回った。原燃料価格の高騰で採算が悪化した。飲料缶類の生産量は、猛暑や外出自粛の緩和で需要が上向き、前年をやや上回った。**製茶：**製茶問屋の売上高は、ドリンク向けが好調で前年を上回った模様。

**【10-12月期】** **食品・飲料：**県内食料缶メーカーの売上高は、前年を下回る見通し。原燃料価格の高騰による価格改定などで需要の減少が予想される。飲料缶類の生産量は、前年をやや上回る見通し。外出自粛の緩和で需要の回復が期待される。**製茶：**製茶問屋の売上高は、前年並みの見通し。

**県内食料缶・飲料缶生産量  
(月平均)**




資料：(一社)静岡缶詰協会

<b>前年同期比</b>	<b>7-9月期比</b>	<b>操業度</b>	<b>需給バランス</b>	<b>製品在庫水準</b>	<b>原材料価格</b>	<b>製品価格</b>	<b>受注残</b>
→	→	89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月


## 工作機械 国内外で省人化やEV化関連需要の活況が続く

**【現況】**



↓

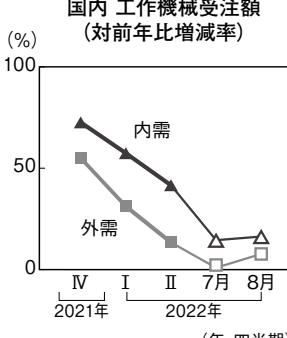
**【見通し】**



**【7-9月期】** 全国および県内の受注額は、前年をやや上回った模様。メインの外需は、主力の中国向けに一服感がみられるが、欧米や東南アジア向けも含め、省人化やEV（電気自動車）化関連需要が活況で好調に推移。内需は、産業機械向けなどで需要が拡大した。

**【10-12月期】** 全国および県内の受注額は、前年をやや上回る見通し。デジタル化やグリーン化の潮流の中、設備投資需要は堅調に推移する見込み。11月には、日本工作機械見本市が4年ぶりにリアル開催される。県内メーカーも多数出展する予定であり、受注の積み上げが期待される。

**国内工作機械受注額  
(対前年比増減率)**



資料：(一社)日本工作機械工業会

<b>前年同期比</b>	<b>7-9月期比</b>	<b>操業度</b>	<b>需給バランス</b>	<b>製品在庫水準</b>	<b>原材料価格</b>	<b>製品価格</b>	<b>受注残</b>
→	→	90%以上	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

## 民生用電器部品

### 底堅い需要に対応し、エアコン生産は前年を上回る見通し

【現況】



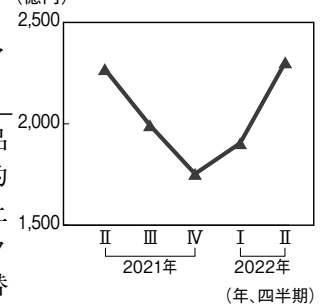
【見通し】



【7-9月期】 県内の家庭用エアコンの出荷台数は、生産のピークが例年の4-6月期から後ろ倒しになったことで、前年を+20~30%上回った。業務用エアコンでは、半導体などの部品調達難に代替部品に対応するなど徐々に対策が進み、出荷台数は前年を上回った模様。

【10-12月期】 県内の家庭用エアコンの出荷台数は、部品不足で秋口まで生産が延長されたことに加え、暖房目的の需要が近年増加していることもあって、前年をやや上回る見通し。冷蔵庫は、コロナ禍の内食中心の生活スタイルが定着し、県内で生産される大容量モデルが買い替え対象となっており、前年実績を確保する見込み。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均)



資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	非常に上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

## 自動車部品

### 部品調達環境は改善傾向、生産量は前年並み

【現況】



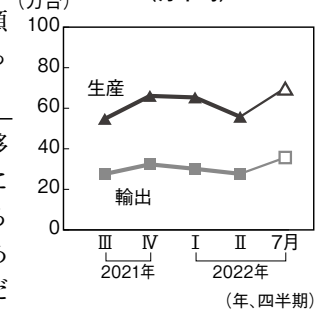
【見通し】



【7-9月期】 全国の自動車生産台数は、低調だった前年を+2割弱上回った模様。中国・上海のロックダウンが解除されたことで、懸案だった部品の供給状況は改善傾向が続いた。県内部品メーカーの生産量も前年を上回ったが、コロナ前の生産水準には届かなかった。

【10-12月期】 全国の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。海外製を含めて部品の調達状況は段階的に改善しており、完成車メーカーは挽回生産を計画するが、半導体などの調達状況により下振れする可能性もある。県内部品メーカーの生産量は前年並みの見込みだが、コロナ前の水準には至らない模様。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

## 二輪車部品

### 調達環境は落ち着きつつあり、生産量は前年を上回って推移

【現況】



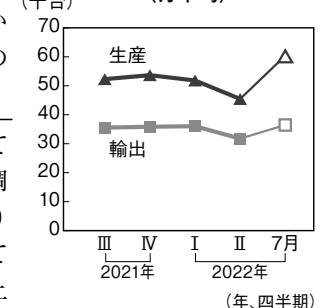
【見通し】



【7-9月期】 全国の完成車生産台数は、好調だった前年を上回って推移した模様。半導体の供給量は依然として不安定であるものの改善傾向にあり、生産が需要に追いつき始めた様子。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年を上回ったとみられる。

【10-12月期】 全国の完成車生産台数は、前年を上回って推移する見通し。サプライチェーンの動向や半導体の調達環境は、依然として不透明感が残るが落ち着きを取り戻しつつあり、完成車メーカーは増産計画を打ち出している。そのため、県内部品メーカーの受注量も前年を上回って推移する見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

## 建設

### 災害復旧の公共工事が急増、民間工事は減少の見通し

【現況】

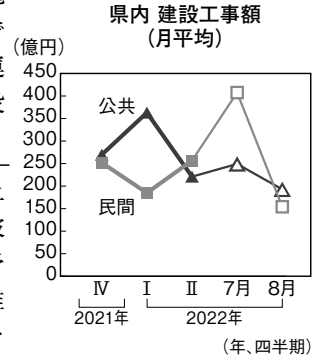


【見通し】



【7-9月期】県内の公共工事契約高は、国関係で土木施設の整備工事や橋梁改築工事の案件があったが、全体では前年を下回った。民間の工事費予定額については、運輸業で自動車や電気機械の需要増に伴う物流倉庫の建設などがみられ、全体でも前年を上回って推移した。

【10-12月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや上回って推移する見通し。9月の豪雨や土砂災害などの被害を受け、災害復旧工事が見込まれる。民間の工事費予定額は、昨年に製造業向けが伸びた反動で前年割れで推移する見通し。なお、主要材料の鋼材価格は二次製品を中心に高止まっており、厳しい収益環境が続く見込み。



資料：国土交通省、建通新聞社

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	3.0~10.0ヵ月

## 住宅

### 金利上昇を見越した前倒し需要に期待、着工戸数は前年並み

【現況】

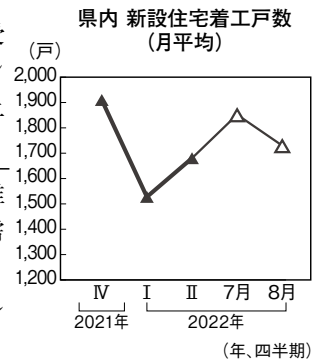


【見通し】



【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回った模様。コロナ第7波の拡大や住宅価格の上昇を受け、商談件数が減少した。利用関係別では、中部のマンション着工の増加が寄与し、貸家と分譲が前年をやや上回って推移したが、持家は前年を下回った。

【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年並みで推移する見通し。今後の住宅ローン金利上昇を見越した需要の前倒しにより、受注数の増加が見込まれる。なお、木材価格については、世界的な需要減退で市況が軟化しているほか、プレカット工場も余剰在庫を抱えており、先安観が出ている。



資料：国土交通省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~8.0ヵ月

## 大型小売店

### 値上げに伴う消費意欲の低下で、総販売額は前年をやや下回る

【現況】

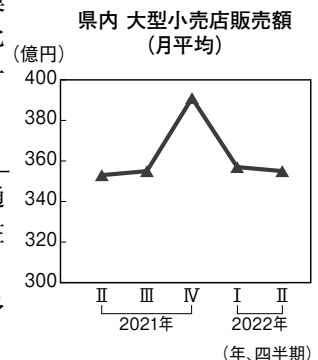


【見通し】



【7-9月期】県内の総販売額は前年並みで推移した模様。百貨店は、緊急事態宣言が発出されていた前年に比べて来客数が増加し、低調だった前年を上回った。一方、総合スーパーは、主力の飲食料品を中心に巣ごもり需要が旺盛だった前年には届かなかった。

【10-12月期】県内の総販売額は前年をやや下回る見通し。百貨店は、外出機会の増加で、主力の衣料品や化粧品の販売増加が見込まれ、前年実績を確保する見通し。一方、10月以降も、油脂や菓子、冷凍食品、飲料など多くの品目で値上げが進行。消費意欲の低下が懸念され、総合スーパーは前年をやや下回る見込み。



資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	供給超過	-	上昇	上昇	-

## 自動車販売

### 供給に改善の兆しもあるも、旺盛な需要に追いつかず

【現況】

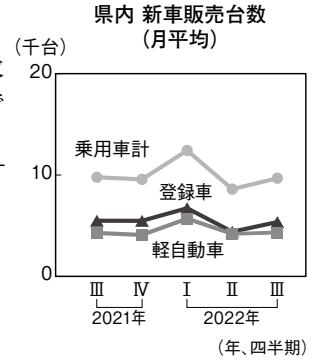


【見通し】



【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年比△0.9%とわずかに減少した。9月は単月で15カ月ぶりに増加に転じた。サプライチェーンの混乱が落ち着き始め、販売台数も伸長した。また、9月末の豪雨により被災した地域では、水没した車が多数発生した模様。

【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年を上回って推移する見通し。旺盛な需要に加え、豪雨による買い替えに應えるだけの供給は困難な状況が続くものの、メーカーでは増産計画を打ち出しており、半導体不足も改善の兆しがある。部品の調達状況にもよるが、需要が大きいだけに大幅な上振れも期待できる。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部  
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	横ばい	横ばい	4.0~8.0ヵ月

## 物流

### 機械関連が堅調に推移し、輸送量は前年水準をやや上回る

【現況】

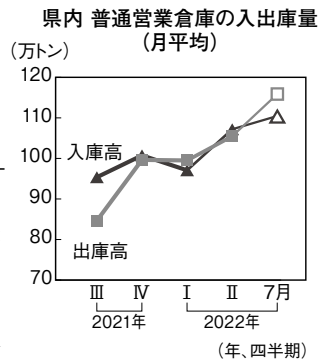


【見通し】



【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移したとみられる。主力の輸送用機器が持ち直したほか、紙・パルプや食料品などが堅調に推移した模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機器が大幅に伸長し、前年を+20%程度上回った模様。

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。輸送用機器や電気機器など機械関連のほか、紙・パルプなどの消費関連が底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年末にかけて食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

## 情報サービス

### デジタル化需要が底堅く、売上高は堅調に推移

【現況】

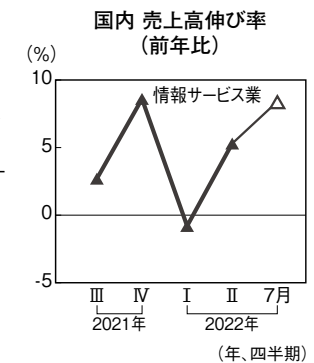


【見通し】



【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。新型コロナ第7波で苦戦する中小ユーザーを多く抱える事業者では、売上高が前年割れとなったものの、大型案件には大きな影響はなく、前年実績を確保できた事業者が多い。

【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。コロナ禍でデジタル関連投資の機運は高まっている。今後は、経済活動が正常化するにつれて、コロナ禍で低迷していたユーザーの業績も徐々に改善することが見込まれ、県内でも広く受注の積み上げが期待される。



資料：経済産業省  
「特定サービス産業動態統計調査」

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

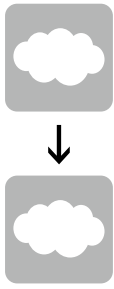
→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	均衡	—	—	横ばい	1.0~10.0ヵ月



## 人材派遣 自治体向け需要が持続し、前年をわずかながら上回る見込み

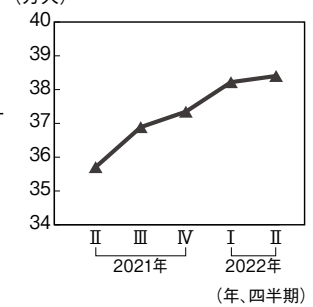
【現況】  
↓  
【見通し】



【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回った模様。事務職や製造業は、いまだ本格的な需要回復に至っていないが、コロナ再燃により既存の自治体向け派遣が延長されたほか、新たに整備された大規模な軽症者支援センター向けの需要が発生した。

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、自治体向け派遣需要が年内は持続し、前年をわずかに上回って推移する見通し。一方、一時帰省した外国人労働者が、コロナや為替の影響から日本での就労を見合わせるケースが出ており、製造業などで需要が回復した場合、人材の供給がタイトになる可能性がある。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【10-12月期売上高】

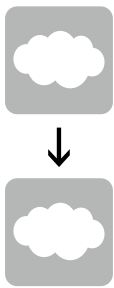
前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

## 観光・レジャー 公的支援を追い風に、売上高は前年を上回る

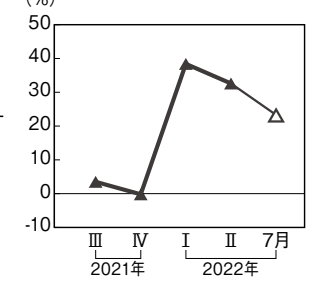
【現況】  
↓  
【見通し】



【7-9月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を上回ったものの、コロナ前の水準に届かなかった模様。3年ぶりに移動制限がない夏休みとなったが、コロナ感染防止の観点から利用できる客室を制限した施設が多く、地域のイベントも規模を縮小したケースが目立った。

【10-12月期】全国旅行支援や県民割などの公的支援に加え、入国規制の緩和を追い風に、県内主要旅館の売上高は前年を上回る見込み。ただし、中国が観光目的での出国を規制しているため、インバウンドの本格回復には至らない模様。また、台風15号により一部被災したエリアや施設等があり、集客への影響が懸念される。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【10-12月期売上高】

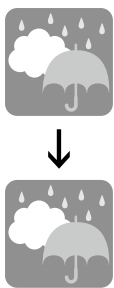
前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
89~80%	供給超過	—	上昇	上昇	—

## 外食 個人需要は回復も、食材や燃料の価格上昇で収益は一段と悪化

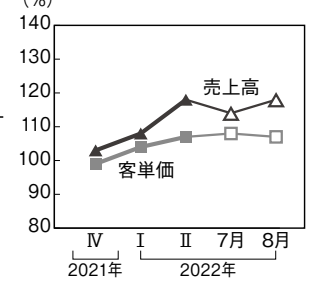
【現況】  
↓  
【見通し】



【7-9月期】主要外食店の売上高は、前年実績を大幅に上回った。外出自粛の緩和やイベントの再開などで家族客を中心に売上、来客数が回復した。ただし、法人需要が回復せず、コロナ前の水準には及ばなかった。原材料などの価格上昇に伴うコスト増で収益も悪化した。

【10-12月期】主要外食店の売上高は、前年を上回る見通し。外出制約がなければ、家族客を中心に来客数、売上ともに増加が予想される。ただし、法人需要の回復は厳しいとみられ、コロナ前の水準には及ばない模様。また、食料品やエネルギーの価格上昇に伴うコスト増加で、収益性のさらなる悪化が懸念される。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

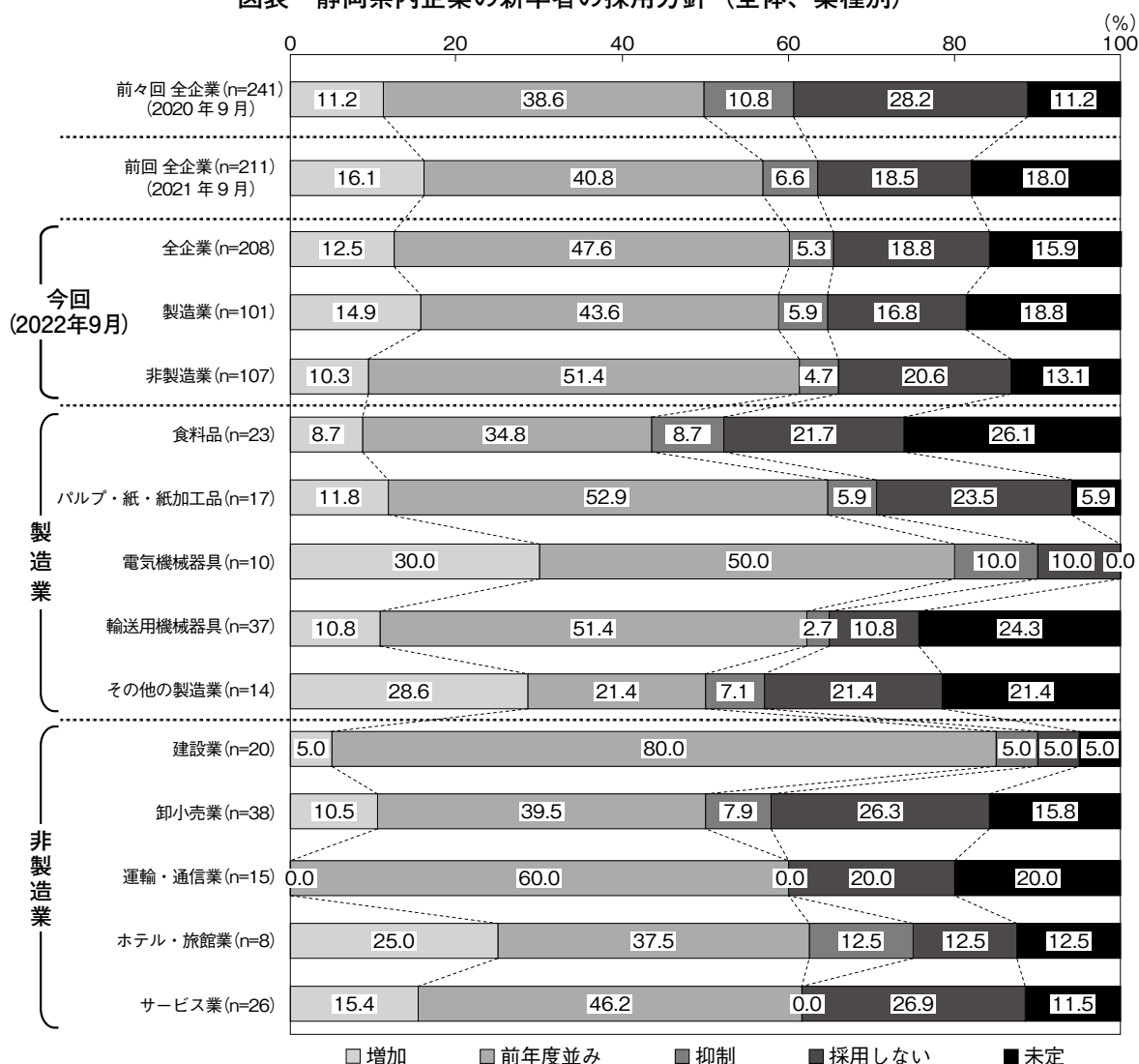
特別調査 23年度の新卒者の採用方針

「増加」「前年度並み」を合わせて6割、採用意欲は堅調

県内企業に2023年度の新卒者の採用方針を尋ねたところ、22年度より「増加」させる企業は12.5%と前年(16.1%)からやや減ったものの、「前年度並み」は47.6%と、前年(40.8%)比で+6.8ポイント上回り、新卒者の採用意欲は堅調な様子がうかがえる。先行きが見通しにくい中、前年に大きく増えた「未定」との企業は、前年の18.0%から15.9%へと△2.1ポイント減少した。

業種別にみると、製造業では“電気機械器具”や“その他の製造業”で「増加」と回答する企業が3割と積極的な一方、“食料品”では慎重な姿勢がうかがわれる。非製造業では、コロナ禍で苦しんだ“ホテル・旅館業”で増加意向が目立ち、“建設業”も「増加」と「前年度並み」を合わせて85%と採用意欲は底堅い。一方で、“卸小売業”や“サービス業”では「採用しない」が多く、企業により温度差が感じられる。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針（全体、業種別）



□ 増加    ■ 前年度並み    ■ 抑制    ■ 採用しない    ■ 未定

調査要領：調査時点2022年9月、調査対象企業591社、回答社数208社、有効回答率35.2%